

「学びの継続計画」の例（フェーズⅠの中学校または高等学校の例）

1 学びの継続方針

臨時休校、分散登校等、どのような状況になっても学びを止めず、生徒が「自律して学ぶ力」を身に付けられる学習環境を整える。

2 現状把握

	ICT 活用環境・教員の ICT スキルの現状	自律した学習者を育むための学びの工夫
強み	<ul style="list-style-type: none"> 卓越したスキルを持つ教員がいる。 生徒に応じた学習プリントを作成できる。 機器整備が進んだ時を想定して、校内研修を行っている。また、現状でできることを研究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個別の学力に応じた家庭学習を課している。 紙媒体による学習計画・報告、課題が定期的・計画的に出されている。 学びの過程で生じた新たな疑問を課題として学習できる。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員のみが ICT を活用していて、温度差や格差がある。 オンラインによる効果的な授業方法を知らない。 ICT 機器の未整備を理由にオンライン学習に苦手意識を持っている教員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員一律の課題を課している。 出席すること、課題を出すことで修得したとみなし、定着の確認をあまりしていない。 与えた課題だけの対応にとどまり、生徒が自ら探究する学びができていない。

3 学びの継続のために準備しておくこと

ICT 活用環境・教員の ICT スキル向上	自律した学習者を育むための学びの工夫
<ul style="list-style-type: none"> ①全生徒の家庭における ICT 環境を調査 ②家庭に Wi-Fi 環境がない生徒が学べる校外の場の確保（公共施設、自宅から近い学校等） ③全教員がハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術の基礎知識の習得 ④動画作成、双方向型授業のやり方等を校内研修で実践的に交流 ⑤ID 取得後の Google でできることの研究 ⑥学校で共通して活用する ICT の操作マニュアルの作成、共有（生徒の端末利用のルール等） ⑦教材をデータ化し共有 ⑧ICT 支援員の配置、活用法の研究 ⑨情報化推進担当の教員は、ICT スキル向上に専念 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT を使うこと以外の学習指導のあり方についての研究 <ul style="list-style-type: none"> 何を家庭で、何を学校で学習するかを明確化 一斉授業ではない授業計画 反転学習と対面・オンライン授業の組合せ グループだけでなく、個人を主とした探究学習の研究 少人数、短時間で学べる個別最適化の授業展開 ②生徒や保護者の ICT スキル向上のためのガイダンスの実施 ③地域社会の発展・貢献につながる協働的、探究的な学びをさらに促進

4 再び臨時休業になった際の学びの継続

段階	遠隔学習の内容	学習状況の把握方法
休業が家庭の ICT 活用環境の整備前	<ul style="list-style-type: none"> 家庭に機器がない場合は貸し出し、Wi-Fi 環境が整備された公共施設や近隣校等で学べるようにする 紙媒体により、電話、メール、郵送等を活用した指導 Google、Classi 等の活用 プリント課題と動画（短時間）配信の併用 スマホでの視聴を前提とした教材（動画）作成 プリント課題の工夫（例題＋演習など） 	<ul style="list-style-type: none"> 紙媒体（レポート）の提出、取組状況の把握 小テストの実施 学習計画書、学習記録の提出 分散登校による個別指導の充実
休業が家庭の ICT 活用環境の整備後	<ul style="list-style-type: none"> パソコン、タブレット、Wi-Fi 環境のない生徒に機器を貸し出す Web 会議システムを活用した双方向型授業の実施 双方向型 SHR（決まった時間に） オンデマンド授業（YouTube） Google、Classi 等で探究的な課題や演習を配信 自分で学ぶ教材を選べるようにする 少人数グループでのオンラインによる話し合い 双方向型とオンデマンドを組合せた学習スタイルの確立 時間割をつくり、取り組む時間を決めた学習 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向型通信による聞き取り 個別指導＋双方向型授業（オンライン）＋オンラインテスト（Google のアンケート機能利用） 口頭試問 プレゼンテーション クラウドやアンケート機能を活用した課題の回収